

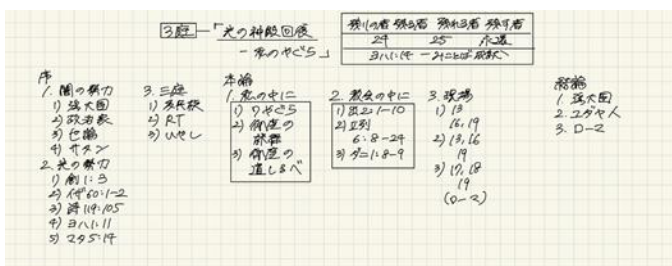
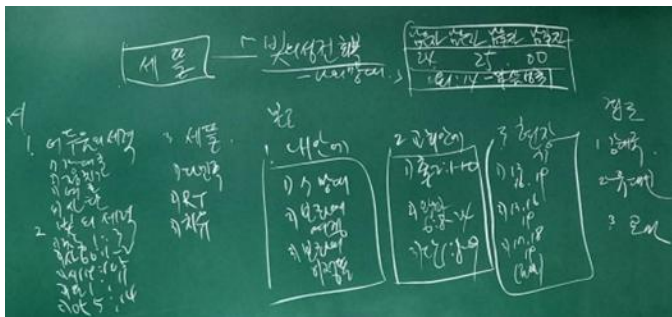
[区分]2025 元旦祈禱会1

[日時]2024.12.31

[講師]柳グァンス牧師

[主題]第 1,2,3RUTC 永遠の答えの始まり

[題目]3庭一光の神殿回復—私のやぐら



ありがとうございます。30年以上、私たちは神様の恵みで世界福音化をしています。もちろん、契約を持った重職者方、長老方の祈りのおかげであります。また、見えないところで多くの勤士方の祈り、執事方の祈りが力になっているのです。見えないところでたくさんの副教職者たちがところどころで献身したので私たちは今世界福音化をしているのです。

長い間神殿建築の許可が出ませんでしたので私はそれをおいてずっと24祈りました。そのときくださった答えです。3つの庭でした。「そうか。この契約を見つけれなかったのか。」その契約を握ったときから、許可及び皆さんの答えが来るようになりました。

そのような中で、感謝なことですし、みなさんが祈らなければなりませんので、今年を送り出し、新年を迎える中で、海外に行くといろんな人に会うことになるでしょう？会ってみるとどうしても人ですから、いろんな話が口の上るわけです。このような話、あのような話をたくさん聞きます。それなりに分析をしないとイケませんから頭が少し痛かったりします。すべて聞いて分析してみるとそうでもないのに、そういう話を聞いたりするわけです。長い間唯一アメリカで私に祈りの課題だけを話す人がいました。契約として握った部分だけ話す。伝道だけ話すのです。そのとき私は「あ」、霊的に疎通をするしかないでしょう？「共に50

00種族を生かそう」。このように長いこと共に祈ってきたわけですね。感謝なことに今回、本人が5000種族を生かす宣教師として派遣されたいという意思を示しました。「いいでしょう。」入っていくことを決め、派遣したのですがみなさんに元気を出しなさいと100億ほど献金しました。祈ってあげないといけないから。お金のためではなく。これは、キリスト教会史においてあまりないことです。お金をたくさん集めてするものではありません。自分の産業を切り取りながらやっているのです。ですから神様の驚くべき時刻表ですね。ですからこれから多くの証拠が来ると思います。誰がなんと言おうが神様の計画を止めることはできません。ですから恐らくここから始まり、ものすごい5000種族運動が実際に始まっていくでしょう。

そこで、今回簡単に3講義を握ってください。今韓国は極端的な対峙をしています。そうですね？少しひどいです。狂っていると思います。あのようにしているわけですが、そうするしかないのです、私が見るに。どちらもくるっています。そうするしかない。ですから災いが臨むのです。ムアンを見てください。ものすごい事故が起こってしまいました。災いです。みなさんはわかっていますが、みなさんの話、分裂、家でそうしますね？家に災いが臨みます。そうですね？他人の話会社でも極端的に。会社に災いが臨みます。聖書にありますか？あるでしょう、エペソの4章に。コソコソ。悪魔がすきを狙う。だから箴言6章2節で「あなたの口のことばによってあなた自身がわなにかかった」。そうです。この舌はよく見えませんが、大きな船は小さな舵一つによって動きます。だからたいへん言葉、そういったものを気を付けるべきであり、私たちは話す言葉が何でもないかのように考えています。それは霊の世界を知らないからです。

私はサッカーの解説をしている人たち、じっと聞いていると本当に最低な言い方をする人がいます。それが影響を与えているはず。ずっと負けています。ある人は解説の仕方が、何か感じさせるところがありますね？以前おかしい解説をしている人は追い出されていました。昔見たかったわけじゃないが、たまたまボクシングの試合を見たら、私はよく知らない選手です。上手い選手のように。いまだに名前を覚えています。李ドンキというボクシングの解説者です。この人は解説をかなりおかしくやっていた。放送でしていたのですが。相手の選手はかなりすばやい選手です、見てみると。ところがうちの選手は

彼の動作をすでに見抜いて動いているのです。私が見るにかなり上手い選手です。相手が次どのような動きをするのかを前もって予測して動いています。ところが李ドンキという人が何と言っているのかというと、「あ、うちの選手の瞬発力がだいぶ落ちていますね」と言うわけです。いや、そんなことないと思うけど？ずっとそんなふうに解説をするわけです。最後は勝ちました。何と言ったのか。「よく耐えました」と言うわけです。主よー。話をするにしてもそのようにやってのけてはいけません。そうですね？

今韓国で起こっていることは古くからのことです。朝鮮戦争のときからあったことです。レムナントたちは知らないでしょう。私たちは小さい頃いつも見て育ってきました。いつもこのように争っていました。「共産主義をやろう」、「民主主義をやろう」。いつも争っていました。それを今続けているのです。

序

1. 闇の勢力

だから闇の勢力が臨むようになるのです。

1) 強大国

主に強大国に。特にイスラエルという国、ユダヤ人たちに。

2) 政治家

簡単に言えば韓国では主に政治家です。

3) 世論

このような人たちとたいいたくさんの世論たち。

4) サタン

このようにサタンが働いて、闇の勢力の中に陥ってしまったのです。

2. 光の勢力

このとき韓国で、昔どのようなことがあったのか、ということです。光の勢力が現れたのです。政治家がやりのけたではありません。このとき韓国にすでに宣教師方が入ってきていました。そしてすごいのは、重要な3つを行なったのです。それをする前に、全世界に韓国で起こっている悔しい事実を知らせました。そうしながら重要な3つをしたのです。このように韓国に光が臨んだのです。さて、こ

の光は何でしょうか。

1) 創1:3

創造の光です。暗闇の中に創造の光が照らされるから勝つしかないのです。

こちらにいるご高齢の長老方をご存じだと思います。韓国がどれほど貧しかったのか。言い尽くせない。とりあえず夕食を食べた後、明日の朝食の心配するほど韓国は貧しかったのです。だから挨拶言葉は「ごはん食べた？」と言う。最近も慣習となって言うが、昔はとにかく会ったら「ごはん食べた？」食べられないから。このような韓国が今先進国の隊列に立っています。何のためでしょうか？理解できないのです。他の国も韓国が理解できない。いつもあんな政治家ばかり集まっているのに国が祝福される。理解できないでしょう。だからアメリカの、韓国の戦争に参加していた軍人が来て衝撃を受けました。「こんなに発展することがありえるのか？」あるシステムはアメリカと比べものにならない。韓国のシステムがたいへん発展している。

2) イザ60:1-2

解放させる主の光。起きよ、光を放ちさえすればいい。

3) 詩119:105

この詩篇119:105で神様のみことばは私たちの足のともしびだと言いました。

4) ヨハ1:11

そしてもっと重要なことは、ヨハネの福音書1:11でイエス様がひかりとして来られました。

5) マタ5:14

だから私たちにもマタイの5:14、「あなたがたは世界の光です」。

3. 三庭

さて、この光がどのように臨んだのかを知らないといけません。このとき、韓国に3つの庭ができたのです。必ず覚えておくことです。3つの庭ができたわけですが、この庭には誰がいたのか。完全に多民族、外国の宣教師方が韓国をしっかりと支えていたのです。本当に幸いです。彼ら

は何をしたのか？学校を建てました。簡単に言えば、レムナント運動をしたのです。それだけではありません。プサンのすぐそのイルシン病院、あれはバヌアツから来て病気になったマッケンジー宣教師。その娘たちが来たのです。来て、あまりにも韓国が貧しいから、奥さんたちが出産中死んでしまうから、子どもも死ぬし、そこに子どもを生むことができる病院を建てたのです。このようにして彼らが福音をのべ伝え始めました。韓国が急激に生かされていきました。暗闇は力を使うことができず、韓国では世界福音化するほどの働きが始まっていったのです。信じることです。

3庭

ですから、今日みなさんが一つ目に握るべき契約が3つの庭です。今私たちが献金を策定したあのチームとも話がまとまっていることが何か。3つの庭です。これが全てです。この単語を知らないで世界福音化はできません。この単語がずばり多民族の庭。そうですね？

もし韓国に宣教師が来なかった？韓国はどうなっていたでしょうか？大変なことになるのです。強大国が抑圧してきても、どうしようもない。私たちが目をつぶっている間強大国が立ち上がって韓国を踏みにじってしまうからそれを全て外国の宣教師たちが知らせ、資料を残したのです。その資料が全部今あります。彼らがいなかったら韓国は大変なことになるところでした。そして、ところどころに病院を建て、福音を伝えたのです。学校を建て、福音を伝えて。代表的な大学が延世大学。セブランス病院。全て宣教師が建てたものです。病院を建てたり、学校を建てたり。3つの庭。

だから、みなさんがこの祝福を味わうのですが、この3つの庭、本論に入る前に今日どんなタイトルを握るべきか。

3庭—「光の神殿回復—私のやぐら」

光の神殿を回復しましょう。これです。3つの庭がある神殿を回復しましょう。これをするために、自分のやぐらを変えることだ。ここで重要な答えをあらかじめ出し、入っていくべきです。さて、今回は長くありません。堅く握る契約を握ることです。みなさんがこの驚くべき祝福を味わうためにどんな祈りを始めていくべきでしょうか？

残りの者、残る者、残れる者、残す者

残りの者の祈り。みなさんは死にません。残る者の祈り。残れる者の祈り。残す者の祈り。

先ほど少し副教職者たちとあいさつしながらこのような話をしました。「みなさんは重要です。恐れるな。このモデルになりなさい。みなさんをわかってくれる人はいない。この力を得ないといけない。」そうですね？みなさんを真に助けてくれる人はいない。みなさんにこの力、この力があるべきです。

24, 25, 永遠

これをおいて無条件24しなさい。これが祈りです。だから人によって違って構いません。目が覚めてから5分だけ祈っても24の始まりです。レムナントは5分だけやってもいいです。寝る前に5分やるだけでもいいです。昼間重要なときに少しするだけでもいいです。これでも24になります。私の場合は、最初から、目が覚めてからメッセージをしに行くまでやります。仕方なく。今日一日中とにかくメッセージをしに来るまで。もし秘書たちが横にいて何かを聞いてきてもあまり答えません。なぜか？これをしないと。すると必ずこれ(25)が見えます。これが祈りです。これが祈りなので、みなさんにこの作品(永遠)が出るようになっていきます。ですから、祈りを正しく味わい始めなさい。

「どこに行って祈るべきですか？」合っていますが、祈りではありません。どこでもやるべきです。そうですね？「あ、このようにときに祈るべきではないでしょうか？」合っていますが、間違った話です。どこでも大丈夫です。これを見つけ出すことです。するとみなさんはすでに残りの者、残れる者、残る者、残す者の祈りを回復されたのです。何も心配する必要はありません。待ちなさいと言われました。25がきます。

するとみなさんの使役の中で合わさって作品が出てきます。「私は祈ってないのに」。みなさんの祈りがすべて合わさって今世界福音化がされているのです。そうですね？みなさんの祈りが合わさって世界が動いているのです。これを知らないのは祈りを知らないということです。

だから私はムスリムの定刻祈り？あれは私たちからしたら遊びです。そういうものではだめです。労苦している副教職者たち、わかりましたね？みなさんはこの主役です。何、どこかの会堂で集まる？そのような祈りでは世界福音化できません。霊的問題は解決できません。何、どこか

の寺に行って108拝する？そのようにしてでは何もできません。私たちは24です。どういう意味かわかりますね？

ヨハ1:14 — 御言葉成就

こうすると必ずこれがきます。3つの庭を成す、このものすごい御言葉の成就が起こります。これが鍵です。御言葉が神様ですが、ヨハネの福音書1:14を見ると、ことばが人となってこられた。これは、受肉という話でもなり、救いという話、すべてになるが、御言葉が私たちに臨んだ、ということ。これを一つ目に覚えておくべきです。3つの庭。

1)多民族

みなさんをとおして多民族が生かされるということです。これよりも素晴らしいことがどこにあるでしょうか？韓国に一番先に3つの庭に宣教師方が来ていたのです。そんなに外国人がいない時代でしょう？なのに来たわけです。

2)RT

この人たちが学校を建てて、ところどころに大学を建てて、しかも中学校高校を建てて次世代を育てたのです。

3)癒し

行って、病院を建てて癒して。

数日前に聞きましたが、イルシン病院、あれはマッケンジの娘二人が来て、ベッドがないから、人々はどんどん死んでいく。その娘たちが米軍の部隊に行ってお願いをしたということです。韓国の人が戦争でどんどん死んでいくから。子どもを生む途中で死んでしまうし、子どもも死ぬし、妊婦も死ぬから、助けてほしい。「じゃあ何を助けようか」。ベッドをください。米軍が使い残したベッドがあったらください。それで米軍たちがそのベッドを持ってきてその病院にずらりと敷いたということです。このように韓国が始まっていきました。ならば私たちはこの3つの庭が何か目を開くべきなのです。この目が開いてこそ神殿が回復される。光の神殿が回復されるわけです。

本論

さあ、このときから3つがきます。

1. 私の中に

この祈りを続けていると、この御言葉のやぐらがまず私に臨んでしまうのです。どのように臨みますか？

1)7やぐら

イエス様が直接言われました。イエス様が、三位一体の神様が御座の力を持って私たちに7やぐらで働かれると約束されました。

2)御座の旅程

この力で、御座の旅程を進みなさいと言われました。

3)御座の道しるべ

最後の時間に言いますが、ところどころに御座の道しるべが立つように作りなさい。来るようになっています。これからは、5000種族の隠れた人材が押し寄せて来るはず。さて、これで終わりなのではありません。

2. 教会の中に

ついに、教会の中に建てるのです。祈りで。このように準備ができさえすればいいのです。うちの教会に来たら、多民族たちがこの力を得るわけだ。さて、時間がないので一つずつ例を挙げます。

1)出2:1-10

モーセの母親です。このモーセの母親が、このやぐらを立てたのです。想像もしない働きが起きました。本人も知りませんでした。御言葉にしたがってやっただけなのに、これが世界をひっくり返す始まりとなりました。これが、光の力です。これが神様の御言葉の力なのです。確かな証拠があるわけですね？これを教会の中に作るのです。

2)Ⅱ列6:8-24

そして何でしょうか？たくさんありますが、Ⅱ列王記6:8-24にあるとおり、ドタンの町を一つ作って置いたら全レムナントが立ち上がり始めました。アラム国と戦わずに勝ちました。

今もみなさんは早くこれ(表)を回復なさるべきです。24、25、永遠。この中にいれば、みなさんの健康も回復されるし、全て回復されます。そして目に見えないやぐらが立ち始めるのです。教会の中でレムナントが立ち上がり始め

るのです。教会の中で、多民族が立ち上がっていくのです。それだけではありません。

3)ダニ1:8-9

行くところごとに、このレムナント、バビロンのレムナントのように癒す働きが起きます。癒すと言うからといってできるのではなく、神様の御言葉に仕えたら相手には癒される働きが起こるのです。みなさんはこのような祝福を持っています。すでに来ているから、やぐらがしっかりと作られたわけです。

3. 現場に

ついに、みなさんの現場に。現場で、パウロを見てみると最も正確に悟ることができます。さて、知っていることですからいつも味わうことです。

1)13, 16, 19

パウロが13章, 16章, 19章を見ると一番先に作ったものが何か？異邦人の庭を作りました。さて、これを作るまではあるときは動きませんでした。心配することはありません。みなさんの産業にこのやぐらが立ってしまった？産業が上手くいくでしょうか、いかないでしょうか？聞くまでもない。レムナントの学業の中にこのやぐらが立ってしまった。

2)13, 16, 19

そして何でしょうか？13, 16, 19章にまた何が出てきますか？癒しのやぐら。誰も治せない病を治してしまったのです。このようなものが出てくるのです。

3)17, 18, 19(ローマ)

そうしながら結局は何でしょうか？17章, 18章, 19章に何が出てきますか？会堂。そうしておいて目標は何でしょうか？ローマ。これです。簡単に契約を握ることです。

「私は、残りの者であり、残る者であり、残れる者であり、残す者です。」この祈りを回復することです。ただなさることです。

ですから私の場合は、いつもしている話、みなさんは健康でないといけないので私の場合は集中を呼吸を持ってしている、ということです。他の人は違った形でやってもいいです。私はこうしています。

2019年にノーベル賞を取った学者が言いました。呼吸が短くて細胞まで酸素が届かないから必ずガンはできると。科学的に証明しました。足りないから、細胞にガンができるのです。誰にでもできたり、なくなったりするとのことですね？ところがこれが足りないからそこに引っかかってしまう。だからか。だから、みなさんがそうするだけでレムナントは脳が生かされます。どうしてやらないのかわからない。神様がくださった呼吸をなぜしない？息をしながらこれを。そうしながら続けて祈りに入っていくのです。祈りをするとき、これ(1. 7やぐら、御座の旅程、御座の道しるべ)、これだけずっと続けるのです。すると、教会の中に作られます(2.)。するとついに何でしょうか？現場に3つの庭が出てきます(3.)。これが勝利です。

だから今日から、今から始めてください。ですからみなさんが、いつも祈りの力の中にいることです。そうですね？他の力が必要でしょうか？祈りの力の中にいるべきです。他の幸せは幸せではありません。それは全部戯言です。祈りの幸せの中にいるべきです。他のものは幸せではありません。そして他の答えは答えではありません。御座から下りて来る力でないといけない。これを味わうことです。

結論

さて、どんな結果が起きましたか？

1. 強大国

強大国で想像もできないことが起きました。これが光の力です。誰も予想できませんでした。血のいけにえをささげに行くと言ったらパロ王は笑いました。「何？血のいけにえ？お前たちはまだ正気じゃない」。理解もできないのです。しかし、これがエジプトをひっくり返したのです。強大国の行くところどころで。

また捕虜になるから「処女がみごもって男の子を生みます。」他のものではダメで「その名をインマヌエルと名付けなさい」。この契約を握った人を通して働きが起こったのです。想像を超越します。想像を超越。ですから恐らくみなさん、これからレムナントを見て想像を超越するでしょう。私たちにどうしてこんなことが起こりえるのか、と。

2. ユダヤ人

完全にユダヤ人のやぐらを粉々にしましたね。完全に粉々にしました。それだけでしょか？

3. ローマ

ローマ。

韓国に初期の頃福音を伝えに入ってきた宣教師が、雨が降るので雨を避けるために町の葬儀が終わった後の道具を集めておいたところがありますね？そこに入って休んだのです。どれほど韓国の衛生が悪かったのか、その宣教師はそこに入って少し休んでいたせいで病気にかかってしまったのです。それでその方が亡くなられたのです。ところが、この方が亡くなってしまったので宣教師がいないでしょう？何年か後に、その妻が宣教師として。「私は韓国でこの福音運動をします」。

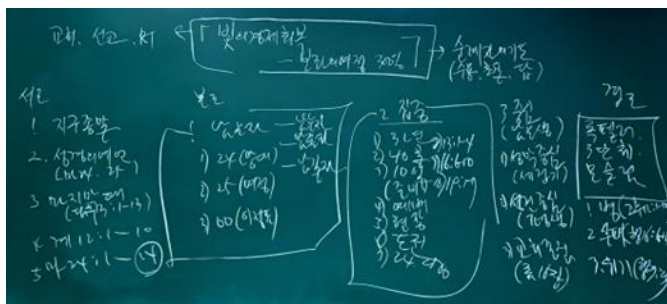
ある宣教師たちは未婚の女性なのに来て、この韓国の風土病に勝てないわけです。病気になって亡くなるわけです。20何歳で死んだ宣教師たちもいます。その人たちが共通して残した言葉があります。死ぬときに残した言葉があるのです。大したことないように見えますが、同じ話をしました。「韓国は、神様の祝福を受ける国であり、韓国はこれから世界福音化をする。」と言うのです。私はそれが慰めの言葉だと思いました。今見てください。韓国が世界福音化をする祝福を受けたのです。だから先進国の隊列に入るしかありません。

ですからみなさんの小さな働きと祈りは、光ですから世界を生かすことができるのです。この祈り(タイトル、表)を回復しなさい。2講義目ではまた別の話をします。今回は必ず回復すべきことだけお話しします。お祈りします。

神様に感謝を捧げます。24神様の力を味わわせてください。主が休むことなく祝福する神様の見張り人とならせてください。新しい力を得る、光の力を所有させてください。主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン。

[区分]2025 元旦祈禱会 2

[題目]3庭一光の神殿回復—私のやぐら



ありがとうございます。世の中には色々な理論があります。しかし、イエス様は簡単にお話されました。「あなたがたは証人となります」。みなさんは証人です。ですから今年は逃してはならない第一講義、「残りの者、残る者、残れる者、残す者の祈りを味わいなさい」。

さて、二つ目に絶対逃してはならないこととして、長老方や勸士方は、みなさんにとって最も重要なことが健康です。ですから、必ず深い時間を持つべきです。簡単に言えば、集中する時間を一日に一度は持つことです。科学的にも証明されているし、聖書にも証拠があります。しないのはいけません。また、レムナントたちは必ずみなさんは、脳を生かさなければならぬので神様に向かって集中する時間が一度はあるべきです。特に、また病んだ方はますますみなさん、自分の病が思い出されなくらい深く入ることができればより一層いいでしょう。特に、何の助けになるのか、と思うかもしれませんが決してそんなことはありません。

ですから何日か前李シヒョン博士のような人はこんなことを言いました。80何歳かまで生きるが、80、90まで生きるが、ほぼ10年間は病気を患って死ぬと言いますね。自分は、自分の歳のときには身体検査はしないと書いていました。一理ある話でもあります。しかし、霊的世界は違います。ですから、みなさんがどうしてそのように祈らないといけぬのかと言うと、二つ目の理由があるからです。

「光の経済回復—御座の旅程300%」

他のことはわからなくても、この光の経済は回復すべきです。これをするために私たちは御座の旅程300%を見つけて出すことです。

教会、宣教、RT←

ひとまず、光の経済というのは、簡単に言えば、みなさんが教会を生かす経済ですね。そして、宣教ができる経済です。そして、次世代を生かすことのできる経済、私たちが回復すべきなのです。

→巡礼者の祈り(受容、超越、答え)

さて、では結論から下してしまうと、集中祈りとは何か、ということ。巡礼者の祈りです。先ほどのものは、みなさんはどうせ世界を生かすべき残りの者ですが、それくらいじゃなくて、私たちは巡礼者の道に行くべきです。その祈りです。

なぜ集中が必要なのかというと、すべてを受容しないといけないからです。受容できないと進めないから。そして受容してしまうと手に負えないですね。だからその祈りが、超越するのです。祈りで。単純に超越してしまっただけではいけませんか？答えがあるべきなのです。答えを見つけると二つが可能です。受容も可能であり、超越も可能です。いくら困難でも自分が深い祈りの中で本当の答えを得てしまえば落胆する理由がありません。なぜか？答えが出たから。

もしこの答えがなかったのならヨセフは道中で死んだはず。そうですね？行く途中で死にます。しかしこれが確かだったので、人間はいくら困難があっても答えが確かなら耐えることができます。何の望みもないものを待とうとするから大変なわけで。望みが確かなら待つことができます。

健康に確信があるときは挑戦することができます。しかし、落胆してしまったら挑戦できないでしょうか？そのように、この奥義が二つ目のものです。2025年は必ず見つけ出すことです。

序論

では、理由を少しわからないといけませんね。

1. 地球終末

多くの顕学たちが共通して答えています。地球の終末を

です。共通して、イエスを信じようが、信じなかりょうが、たいへん優れた人物たちはみんなこれを話しました。

2. 聖書の預言(マタ24, 25)

そして聖書はどのように預言しているのか。まあ、参考にするべきですね。終わりの日は、たいへんつらい時刻表が来ると預言しました。25章では教会が揺れること。こういったことを預言しました。

3. 終わりの日(IIテモ3:1-13)

しかも、さらに神様はパウロに終わりの日の状況を説明しました。IIテモテ3章ですらりと説明しました。今と同じです。神の愛、そんなものはありません。みんな自己愛、肉体的愛、間違っただけのもの。だから苦しみが出てくるしかない。終わりの日にやって来る困難について話しました。

4. 黙12:1-10

しかも、ヨハネの黙示録では終わりの日、ものすごく混乱も預言しました。この悪魔がものすごく力を発揮するかのように見える、このようなことも預言しました。

5. マタ24:1-14

しかし、私たちに残っているものは、イエス様がこのように言われました。こういうことが全てあったとしても終わりではない。まあいろんなこと、あんなこと、あるでしょう。終わりではない。「御国の福音は全世界にのべ伝えられて、すべての国民にあかきされ、それから終わりの日が来ます。」ですから、これが本当なら私たちのあらゆる歴史はここに入っているわけです。ならば錯覚でない錯覚をすべきです。私たちが本当に福音を伝える教会なら、神様が私たちに歴史を任せるはずですね？

さて、ですから、私たちが3つの無能だけは解決していきましょう。あまりにも貧しく、病み、人も生かせない。これで逝くのは違うのではないか。まあそんなに貧しさが罪ではありませんが、でも世界福音化を全くできないというのはいかがなものでしょうか。もちろん、病も罪ではありません。誰でも痛いわけだから。しかし、みなさんがあまりにも痛くて痛い話ばかりして名もなく、光もなく傷んでいる、それはいいことではありません。ですからみなさんが世界福音化をしてから逝くべきなのです。

本論

さて、これ(タイトル)をどのように作るのか。

1. 残りの者

巡礼者の祈りであるわけですが、一つ目は先ほどお話ししたように、日頃残りの者の祈りが最も基礎となるわけです。

1)24(やぐら)

この24が、神様がくださったやぐらであるわけです。これを持って祈りをずっとしていることです。

2)25(旅程)

そうしているうちに25は、まあ旅程を進まないといけませんから。

3)永遠(道しるべ)

最後の時間、明日話しますが、永遠という道しるべは立てないといけませんから。

この祈りを平安に、幸せに行なうことです。

—残る者

するとみなさんに力が生まれ、残る者となります。それだけではありません。

—残れる者

みなさんはこれから暗闇を征服するようになるので残れる者として立つようになります。

—残す者

そして、これから多くの人を残す、残す者になるわけです。この祈り(1.)がこれであることを第一講義で話しました。簡単に、この中から重要な答えが出てくるのです。

2. 集中

一日に一度くらいは集中祈りをしてください。必ずなさるべきです。みなさんの健康のためにもなさるべきです。それで、みなさんが霊的力を得るためにもこれはなさるべきです。まったく難しくないでしょう。自分が時間を作ってやるのです。いつやるのか？それも自由です。

私の場合は主に、集会を前にして集中します。どうしても他の時は平安にこのように(1.)やって、集会を前にしたと

きは集中します。なぜ？私にはそれが重要だから。集中するのも、少し参考にするだけです。どのように集中するのか、ということです。時間は簡単です。深くこの祈り(1.)に入りながら。

1)3年

イエス様が3年間下した結論は何でしょうか。いつも覚えておくことです。全て捨てなさいと言いました。捨てないでいるのです。間違ったものを握りしめています。ここでダメなのです。イエス様がしてはならないと言ったことをどうしてそんなにつかんでいるのか。つかんでいます。そしてイエス様が最後に一つ言いました。わたしが行き、助け主聖霊をあなたがたに送ります。永遠にいます。すべてを思い起こさせます。そして、あなたがたといつも、あなたを導きます。いいですね？

2)40日

この約束をしておいて、40日集中したのです。ある面で私たちは40日やる必要もありません。毎日のように現場の今日のミッションを見つけることです。これが重要です。見つけれないなら放っておけばいいのです。そうですね？自分が見つめようとしたのに見つけれないのは大丈夫なのです。神様の御心は何ですか？と尋ねたのにわからない？ならば大丈夫なのではないでしょうか。尋ねないことが問題であって。

だから、ここ(40日)では毎日のようにミッションに集中するのです。何でもないことかのように見えますが、みなさんの産業に神の国が臨み、ものすごいものが見え始めます。

3)10日(準備)

10日の間マルコの屋上の間に下りて集中したのです。ということは、私たちで言うところの、あらゆる部分で恵みを受ける準備です。

4)礼拝

そのような中で、とても重要な礼拝で答えを見つけることです。「使徒の教えを受け」。礼拝で答えを見つけるわけですが、みなさんは説教を全て覚えられません。覚える必要もないし。主日の日、はっきりと刻印しなさい。これが答えです。自分が間違ったものを握ったらどうするのか？

神様が直してくださるでしょう。刻印しないから放っておく。刻印したら。

私たちが子どもに、実践が上手い子どもには、親が気にして教えてあげますね？実践を全くしない子どもは気かけません。なぜ？どうせやらないから。これが2:42です。

5)現場

そして、とても重要な神様の御言葉がみなさんの現場に行ったら、現れます。毎日。このようになれば信仰生活を正常にやれているのです。じっとしているのに神様の御言葉が成就される？いいでしょう。答えが来ようが、来なからうが、関係ありません、私は。来ないのも答えです。重要なことは、御言葉が成就されたのか、されていないのか、ということです。今私たちは5000種族の中にいるわけですが、これは神様の御言葉の成就であるわけで、私たちが作り出したものではないわけです。あらゆる民のところに行きなさいと言われたので。ならばそれができるのか、できないのかを見るべきなのです。

6)挑戦

そうしながら、重要なものに目が開かれます。挑戦すべきものが見えるのです。それが定刻祈りです。ああ、足のなえた人を立ちあがらせなくては。こうなったのです。これはただの話ではありません。全てのユダヤ人が知っているあの足のなえた人をイエスの名で歩かせるのです。みんな知っています。神殿の美しの門の前に座っています。海外の人も知っている。なぜか。礼拝をしに来るから。それを歩かせたのです。驚くべきことが起こりましたね。私たちが、キリストが初めて証されるときどんなことが起こるのか、それは誰にもわかりません。それよりもっと大きなことが起こります。

7)24, 25, 永遠

そうしながら先ほど出てきたものが何でしょうか？これ(24, 25, 永遠)が再び戻ってくるのです。集中すると結局これが見えるのですが、ここで3つを参考にすべきです。

8)13:1-4

みなさんが行った場所です。また、行くべき場所です。ここで確信のある答えを見つけ出すことです。見つけ出せないのなら先延ばしにすればいいのです。見つけ出せない

いのなら待てばいいのです。そうですね？

9)16:6-10

マケドニアです。道が塞がれた？1部の説教ですね？道が塞がれた。私たちはどうしてもあきらめたり、よそ事をしようとしています。深い祈りの中に入り、聖霊の導きを受けたのです。主の霊が、とあります。次に、幻の中で、とあります。これが時代を変えたのです。私たちはなんとなく同じことをしたのに、神様は時代を変える作業をみなさんにゆだねられた。間違いありません。

こういう次元で、レムナントたちは何回も質問することはありません。皆さんの年齢は質問の多い歳ですが、それは未信者が言う話であって、みなさんには質問することがありません。心配しなくていいのです。みなさんどうしても未信者の状態を持って話をするのですが、これからどうすればいいのだろうか？それは未信者がする話です。ああ、勉強ができなかったらどうしよう？できなければいいのです、もう。300%を作ってしまうばいいのです。そうですね？いくら勉強ができて300%できない？やっとのこと就職します。これができていると人が訪ねてくるのです。

10)19:1-7

ツラノに行く前に。ローマに行く前に。確かな答えを見つける。マルコの屋上の間に臨んだ働きがそのまま。みなさんが先に、毎日目に見えない力を体験すべきです。これが全てです。

みなさんがショックを受けてしまうと、何でもないかのように見えますがみなさんの体が全部死んでしまいます。おそらく今回飛行機で生き残った二人は相当ショックが長引くと思いますが。なぜか？自分も知らないうちにすべてを揺さぶってしまったのです。ああ、私はケガをした、じゃなくて、目覚めてあれ、なぜ私がここに？と言ったそうですね？それだけショックを受けたのです。人はこのように少しショックを受けただけで、間違えると死ぬこともある。私たちが瞬間的に恵みを受ける？これはものすごく重要なことなのです。この力(2. 集中)を養いなさい。必ずみなさんにはこの働き(教会、宣教、RT←)が繰り広げられるはずで。それこそ光の経済が回復されます。これが備えられることが300%です。

3. 中心(残りの生涯)

中心。これをなさる際、これから残りの生涯をどのようにするのか、ということです。これを考えるべきです。私の残りの生涯をどうするのか。簡単に3つを話せばいいのです。残りの生涯をきちんとやりのけた人たち。

1) 幕屋中心

幕屋中心。モーセです。そうですね？モーセの時代です。

2) 神殿中心

神殿中心。残りの生涯。

3) 教会中心

教会中心。

1) 幕屋中心(三祭り)

幕屋中心はモーセですが、3つの祭りだと見ればいいです。そうですね？これを中心に。安息日を中心に。

2) 神殿中心(一生)

ダビデは、一生を祈ったのです。とにかく神殿準備をしたのではなく、一生を祈りました。そして神様が1000やぐらの祝福まで与えました。

3) 教会中心(ローマ16章)

この教会中心とは何でしょうか？完全にローマ書16章の人たち。

え、私の生涯をこうすべきですか？それでこそ光の経済が回復しれます。それでこそ暗闇の勢力に勝ちます。そしてすでにみなさんにこの祝福(1.)は来ています。だから少し集中してしまえば癒され、健康にもなり、すべてできるのです。みなさんの残りの生涯が健康であるべきで、あまりにも元気がないのはいけないでしょう。だから歳を取るほど深い祈りに入るべきです。これで力を得るべきです。レムナントは言うまでもありません。みなさんが外に行って競争する、簡単ではありません。人間の慰めがどれほど慰めになるのでしょうか？それはつかの間ことであって、本当の慰めは神様が上から下りて来るものとして来るわけです。

結論

どうしてこうなるべきなのか。重要なものが残っているから。

ロックフェラー 3団体 ムスリム

なぜこの中心にならないといけないのかということ、ロックフェラーがそのように生きました。アメリカで最高に働きを起したロックフェラーが完全に教会中心でした。事業も教会中心。これは簡単なことではありません。母親が最初からそのように教えました。あなたが献身するのは働きじゃない。それは働き人がやることであって、あなたが献身するのはお金だ。あなたはビジネスマンでしょう？あなたが献身すべきこととはとにかくお金だ。お金を稼いで全部教会に捧げるくらいにきなさい。これが刺さったのです。だから教会を2000も建てたわけだ。みなさん教会2000、簡単じゃありません。大学を建てたのなら理解できますが、教会を2000も建てた。

なぜこのように進むべきか、というと3団体が今このようにしているのです。本当にあきれれることです。3団体は毎日集まる。フリーメイソンは会館に毎日集まる。どれほど集まりが同じか、行ったことがありますね？私が行ってみると、部屋の大きさが同じです。そのかわり、少し大きい、小さい部屋がありますね？正確に壁に何人入るかが書いてあります。それはずっと入って来るということです。だからとにかく集まって祈る礼拝堂の形式です。この人達は毎日集まるのです。私たちはそのようにはできなくても、何が中心となるべきか、それは出てくるべきなのです。それでこそ光の経済が来るか、来ないか、するわけです。怖いです、ムスリム。怖いです。

ですから私たちはこれよりもずっと上手くできる奥義を持っています。これを逃してはいけません。今日の一つ目、残りの者、残る者、残れる者、残す者の祈りを回復しなさい。巡礼者の祈り、集中。回復しなさい。明日、少し重要なことをやります。

1. 病

参考までに、みなさんが病にかかったときはどうすべきでしょうか？人間ですから、生きていく中で病になることがありますね？病気になります。若いときは感じませんが、歳をとると病になることがあるわけです。

2. 失敗

もし、失敗のようなものがやってきたと思われるときはどうすべきでしょうか。

3. 危機

また、少し危機が来たようだ。このようなとき。聖書に答えがよく出ています。

1. 病(Ⅱコリ12:1-10)

パウロはこのように祈りました。病気になったとき。私が体の外にいるのか、中にいるのかわからない。すごいことです。これが、ずばりこの集中している巡礼者の祈りです。だから自分が体の外にいるのかわからない、ということは、自分に関することを忘れたということです。これくらい深い祈りに入ったのです。やる価値はあります。病気なわけだから。何がうらやましくて他のことを見つめるのでしょうか。このように。

2. 失敗(使16:6-10)

失敗したとき。深い祈りの中に入る。深い祈りの中に。私たちは何かを見つけようとします。深い祈りの中に。そうしたら時代を変える働きが起こってしまいました。マケドニアへ。

3. 危機(使27:24)

また、急な状況に出くわすこともあります。みんなが船の上に行くところ、パウロは船底に下りていきました。なぜなら神様が召されたらどうせ逝くわけだから。少し高いところにいたところで生きられるでしょうか。船底に下りていきました。どれほど祈ったのか。「昨夜、神のみ使いが」。これくらいならすごいのです。「昨夜、神のみ使いが私にこう言いました。恐れてはいけません、パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。」この事実を船に乗った人たちに知らせなさい。知らせたら暴風が静かに。私たちはそうです。みなさんは神の人ですからこのようになさるべきです。

必ず忘れてはならない今年の祝福。明日3講義目を行います。三位一体の神様に栄光の拍手を捧げましょう。感謝を捧げます。

神様に感謝を捧げます。私たちに神様の人として新しい

力を得るよう導かれたことを感謝します。これから神様がくださる力を新たに受けますように。主イエスキリストの御名によってお祈りします。アーメン。